

研究テーマ 看護師への退院支援教育が主介護者の不安に与える影響

病院名 医療法人常磐会 いわき湯本病院

演者 たどころはるか
○田所永(看護師) 北郷春菜(看護師) 若松弥生(看護師)

概要

【緒言】

地域包括ケア病棟は日常生活の場へ患者を早期退院できるようチーム全体で取り組む役割を担っている。若松ら(2024)の研究では、病棟看護師が退院後の生活を具体的にイメージできず、主介護者の生活全般に対する不安を十分に軽減できていない要因であることが示唆された。本研究は、退院支援教育プログラムを看護師に導入することで、主介護者の退院後の生活に対する不安が軽減するかを検証した。

【目的】

地域包括ケア病棟の看護師に退院支援教育プログラムを導入することで、主介護者の退院後の生活に対する不安が軽減するかを明らかにする。

【方法】

- 1) 研究期間: 令和7年6月～9月
- 2) 研究対象: A病院地域包括ケア病棟に勤務する看護職員28名および同病棟に入院し、自宅退院予定で同意が得られた主介護者
- 3) データ収集方法: 看護師には退院支援教育プログラム介入前後で坂井の「病棟看護師の退院支援実践自己評価尺度」を基にアンケートを実施。主介護者には退院後の生活に対する不安のアンケートを実施。昨年度の研究結果と比較。
- 4) データ分析方法: 看護師の介入前後のアンケート結果はウィルコクソン順位和検定、属性は単純集計。主介護者はマン・ホイットニーU検定、性別・続柄は χ^2 検定を用い、有意水準は $P<0.05$
- 5) 介入方法: 看護師へ退院支援教育プログラムを導入し、入退院支援看護師、MSW、ケアマネジャー、訪問看護師による講義を1週間実施した。さらに、退院患者への同行訪問を含めた看護実践を行い、病棟内で看護師同士が気づきを共有しフィードバックを行った。
- 6) 倫理的配慮: 無記名調査とし、研究の趣旨・自由参加・個人情報保護について書面で説明し同意を得た。

【結果】

看護師および主介護者のアンケート結果において、全質問項目で有意な向上が認められ、有意な不安軽減効果が示された。

【考察】

退院支援教育プログラムを導入したことで、看護師は退院支援に関する知識を得るだけでなく、退院後の療養生活を具体的にイメージできるようになったと考える。大崎ら(2009)は、退院支援には知識の向上が不可欠であると述べており、本研究においても多職種と連携した教育により、その理解が深まったと考える。松原ら(2015)は、同行訪問を通じて退院後の生活環境を直接確認することで、患者・家族の生活を踏まえた個別性のある退院支援が実践されると述べている。本研究においても、同行訪問にて退院患者の生活環境を実際に確認し、その経験を病棟内で共有する機会を設けたことで、看護師が退院後の生活をより現実的に捉えるようになったと考える。これにより、看護師自身の退院支援に対する知識や実践力が向上し、主介護者の不安軽減につながった可能性が示唆された。

【結論】

座学と同行訪問を組み合わせた退院支援教育は、退院後の生活を現実的に捉えた退院支援を可能にし、主介護者の不安軽減につながった。